

公害に思う

大阪大学名誉教授 植松時雄

公害の声が大きい、その原因はどこにあるだろうか。火力発電所や石油化学工場の排ガスが光化学スモッグの原因ともいう。あるいは自動車の排気だともいう。その原因を追求し、ガスの清浄化の技術開発に力を入れなければならない。しかしさかのぼって考えると、真の原因は私たちにあると思うので、技術開発と併行してこの際生活における消費の節減の実行を提唱したい。

まず暖冷房は外気温度の±5℃以内に押える。今までは、ビルなどでは、冬は温か過ぎるし、夏は涼し過ぎる位である。これを規制すれば、電気の消費量も少なくなるし、燃料も少なくてすむ。

次は使い捨てを少し制限する。例えば、新聞紙も多過ぎて、家庭では古新聞紙の処置に困る。大きな広告をやめてページ数を半減すれば、それだけ印刷用の動力も、運搬のための自動車も少なくてすむし、貴重なパルプ資源の消費も少なくなる。また自動車も、どうしても必要なら別として、1人で大きな車で走るのを少し控える。

これらはほんの1例に過ぎないが、地球にある物資は無限ではないし、地球は唯一つである。何はともあれ、住みよい地球として子孫に引継ぐのが私たちのしなければならない務である。

(昭47・10・5)